

---

# 純粹

イマワギマヤ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

純粹

### 【Zコード】

Z8715Q

### 【作者名】

イマワギマヤ

### 【あらすじ】

久しぶりの再会を果たす友人

気持の変化や葛藤を経て暖かく幸せな時間を紡いでいく。

o n e d a y (前書き)

全ての繋がれる方々に。

(ああ、今日は何日だつたつナ)

私の頭の中は、毎日のただ繰り返しですつかり時間の刻み方を忘れてしまつてゐる。

外はもうひつすりと白みはじめて、朝がきた」と告げていた。

(やうが、日が登るのが早くなつてきたな)

そんなことを考えながら、ヒーターのスイッチをいた。

昨夜飲みきれなかつた缶ビールがテーブルに残つてゐる。

(折角あけたのに)

しぶしぶキッチンに飲み残しを流しながら、お湯を沸かす。

ふと、冷蔵庫の横においたカレンダーに日がいつた。

(あつ)

――ピ――――

湯気の立つてゐるやかんの火を慌てて止めた。

そして、小走りで携帯を取りに行き、メールを確認する。

【ただいま！今ようやく戻りました！――今週末時間ある？】

今日は写真の勉強だかなんだか知らないが、アメリカに行っていた友人が帰国する日だつた。

日本を発つた日は、この日をずっと心待ちにしていたはずなのに考えないように努めてたせいか、今日の今日まで全くもつて忘れていた気がする。

むしり、忘れようとしていただけにあの日の気持ちが全く思い出せないことに少し寂ぼやかすら感じた。

コーヒーを淹れながら、返信を考える。

（最後に話した時、私はなんて言つて別れたんだつたつけ）

彼は、私の大切な友達——だつたはずだ。

特別な感情はなく、ただ、気楽に一緒にいられる。そんな関係だつた。

性別を超えた友情がある

そう心から思える仲だつた。

（どうあえず、返信しないと）

【おかえり。長旅おつかれさまー時差ボケしてるんじゃない？今週末は今のところ予定もないから、お土産もいろいろうがてらう。飯でも行こうか（笑）】

そう送つて、暖まつてきた部屋の天井を見上げる。

（あひ、支度をしよう）

私の凍りはじめていた心が、少し溶けはじめた。

## o n e d a y (後書き)

縁を守りたい。幸せにしたい。そんな気持になつていただけたらと思ひます。

しかし、私は相変わらずぐぐもつた気持ちが拭えずについた。

私は彼の存在をただの背もたれの様な都合のいい友人だと思つていた。

そう

思つていたのだ。

彼が日本を離れることを聞き、私は笑顔でその場にいられたかすら正直自信がないほど。

急にひとりぼっちになってしまった。

そう思つくりいの言い知れぬ孤独感、虚無感、不安感。

その時から、まるで何かから逃れるかの様に私の中にいる純粋な私

が暗い暗いダムの底に沈んでしまつた。そんな気がしていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8715q/>

---

純粹

2011年10月8日18時06分発行